

2017年1月7日  
(於：神戸芸術センター)

SLiT-J ユーザーコミュニティ発足式挨拶

東北大学理事（研究担当） 伊藤貞嘉

先生方、新年明けましておめでとうございます。今回の SLiT-J ユーザーコミュニティの発足大変おめでとうございます。心からご祝福いたします。

今回の立ち上げに関しまして、河村会長をはじめ、東北経済連合会の皆様、東京大学、理化学研究所、Spring-8 や KEK をはじめとする多くの学術機関の先生方、さらに日本学術会議、石川会長と石川会長を長とする放射光学会また、放射光学会を含む多くの学術団体の皆様、さらにエンドステーションコンペを担当された上に多くの広報活動をしていただきました壽榮松先生、皆様の今までのご努力に関して心より敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私、5年ほど前から東北放射光施設の推進に関わっておりまして、やっどここまで来たか、と感慨深く思っております。浮き沈みが一杯ありました。先ほどお話がありましたように、2011年の大震災の後に早稲田先生と福島大学の学長でありました入野先生のお二人、それから東北七国立大学の中心メンバーで東北放射光施設の建設を推進しようという話がおこりました。私は2012年に研究担当理事になりまして、その話を聞きまして、これは東北大学としても、この放射光施設というものに関してただ単なる東北地方の復興というものではなくて、日本の学術と産学連携にとって極めて重要であると思っ、東北大学の研究推進本部というところで話をし、みんなで議論して、「これはぜひ東北大学としては学術的にサポートして全面的にそれを推進する、という方向にいかねばいけない」という結論になりました。そこで、東北大学研究推進本部に東北放射光推進会議というものを作りました。その下で、濱先生を中心に、そのデザイン、広報活動、学術的な意義を皆さんに理解していただくための専門委員会を設け活動してまいりました。それと同時に東北七国立大学の協力関係を作っていくとして、全体としてぜひ進めていこうという連携ができました。そして、これまでに Spring-8 や KEK などいろんな機関と話をしながら東北放射光計画を全国的に進めてまいりました。幸い、東北経済連合会、宮城県、それから東北大の3者が、東北放射光をぜひ進めようということで、東北放射光推進協議会というものを作って、その中で政界にも財界にも学界にも訴えていこうということで、協力することができました。

私もいろんな所、行政や関係各所との協議などを行い、話をし、その間いろんな紆余曲折がありました。こりゃダメかなと思うような局面もありましたが、「いや、絶対これはやらねばいけない」という決意で今まで進めてきました。学内におきましては、私が一応、東北放射光推進会議の責任者ということになっておるわけですが、私が実質的に中心になってやることは不可能であります。私は出身が医学部でございまして、放射光そのものについては全くの素人ですが、知れば知るほど、放射光が学術や産学連携における国際競争力に不可欠であることを実感しました。そこで、放射光施設の実現を本当に、そして本気で推進するためには、専門的観点からこの計画に専念する専門家を東北大学は持つ必要があると決断しました。そこで、当時の進藤理事（産学連携担当）と相談をし、総長、それから河村先生と協議し、実質的な担当者を本学に教授として招聘することに決定しま

した。人選に関してはいろいろな方と話をし、高田先生に白羽の矢を立てました。また、熊谷先生にご協力をいただくという体制をとって、東北大学としては全力で東北放射光施設計画の実現を支援する覚悟をきめたところでもございました。幸い、高田先生は東北大学に着任することを決断され、熊谷先生にもご理解を得られて、現在まで大きな躍進が得られました。特に、高田先生はSpring-8で先生自ら推進してきたコウリションコンセプトを前面に出し、東北放射光施設の実現に対して新たな道筋を作っていただきました。大きな大きな転換でした。当然、学术界からも産業界からもこの計画に、大きな賛同を頂いており、今後さらに広がりを見せるものと確信しております。この過程で文科省からの委託事業があり、これを東北大として受けまして、高桑先生、上田先生にもご協力いただいて報告書を作る、ということで今までやってきているわけです。これまでの活動はただ単なる震災復興ではなくて、日本の学術のために、そして産業界のために、東北放射光施設の実現が不可欠であるという我々東北大学の非常に強い思いがあり、また、それに多くの学術の先生方、産業界の方、そして、政界の先生方の賛同が得られて現在に至っているのだということだと思います。つい先日も宮城県の医師会の新年会に出席され、東北放射光施設の実現を応援してくださっている方々と「やっとトロックが動き出した。これから加速するだけだ」という話になり、みんなで頑張ろうと決意を新たにしましたところ。

今回のこのユーザーコミュニティが、今後、この放射光施設の実現のために非常に大きな大きな力であるということ、私は心から確信しております。ぜひ皆さんの力を合わせて、日本の学術のために、産学連携のために、そしてもっともっと日本が発展するために、この放射光施設、3GeVの放射光施設を作るために、皆さんで力を合わせて推進していきたい、と思っております。東北大学はそのために、大学であるが故に制約はいっぱいありますけれど、その中でできることは確実に、そして全力を挙げてやろうと思っております。さきほど河村先生がコミュニティの準備委員会の会長としてご挨拶なさいましたけれど、我々は河村先生をサポートしながらぜひこれを成功させていきたい、と思っております。どうぞ先生方、今後、放射光施設の実現のために、絶大なるお力をお貸し続ければ、……。貸すのではなくて、一緒になってやっていただければと思います。

本日は先生方まことにおめでとうございました。